

茶病害虫防除情報

【第 11 号】

令和 2 年 7 月 7 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

三・四番茶摘採後および更新園の病害虫防除対策

今年の梅雨も後半は大雨が続き、豪雨被害も各地で発生していますが、梅雨明けは近いと思われます。これからは連日厳しい暑さが続きそうです。今年は市況などの関係から三番茶摘採を中止する園も多いようですが、三番茶の生産は早場産地から始まってきました。

これから病害虫の活動は最も盛んな時期になりますので発生状況に注意しましょう。三番茶を摘採した後や更新園再生芽で発生する病害虫には**輪斑病・炭疽病・新梢枯死症・チャノミドリヒメコバエ・チャノキアザミマ・ハマキムシ類・カンザワハダニ・ヨキエダシク**などがあります。この時期の茶園の防除は、来年の一番茶の基になる秋芽の充実や樹勢維持のために大切です。

☆ 防除の考え方

「やぶきた」園の輪斑病防除は摘採直後に行います。チャノミドリヒメコバエ・チャノキアザミマは梅雨明け後増加しますので、摘採後から秋芽萌芽前までに防除し、秋芽に対する加害を未然に予防します。ヨキエダシクは発生状況を観察し、多い場合は出来るだけ虫が小さい若齢幼虫期に防除します。ハマキムシ類はハマキ天敵、ハマキコン-N などによる防除を実施していない園では発生に注意し、同時防除します。

今年は三番茶の摘採を中止し、深刈り、浅刈りなどの更新園が多いですが、更新後の樹勢回復のため再生芽の萌芽・生育初期のチャノミドリヒメコバエ、チャノキアザミマ防除および「やぶきた」園では生育期の新梢枯死症、炭疽病、再生芽整枝後の輪斑病防除は的確に行います。輪斑病、チャノミドリヒメコバエ、ハマキムシ類などの防除薬剤の一部には耐性菌発生や感受性低下がみられますので薬剤選択にも留意します。なお、薬剤の使用回数は三番茶(最終)摘採・整枝、再生芽整枝でリセットされ、秋整枝までが一収穫期になりますので、薬剤選定に留意します。

☆ 輪斑病・新梢枯死症…やや多 炭疽病 黒葉腐病

今年の発生は、二番茶摘採後まではやや多発生の状況でした。梅雨の後半は気温が高く、降雨が多くなり、三番茶摘採は降雨日になる恐れがあり、発生は多くなると思われます。本病は主に高温の雨天時や葉が濡れている状態で摘採や整枝を行うと、その切り口から感染し、発病しますが、降雨がなくても摘採・整枝時の傷の汁液でも感染しますので、伝染源病葉の多い園などは注意が必要です。このため薬剤防除は摘採・整枝後できるだけ早く行うことがポイントで、摘採 3 日後までに散布します。摘採後すぐに防除が出来ない場合は、摘採 1 週間後頃に 1cm 位整枝して直ちに防除します。また、今年も深刈り、浅刈りなど更新園が多いですが、「やぶきた」園は更新後の再生芽生育期に新梢枯死症、炭疽病の防除、再生芽整枝直後に輪斑病の防除をします。梅雨明けが遅れると更新園再生芽に黒葉腐病が発生することがあります。

☆ **チャノミドリヒメヨコバイ…多** **チャノキイロアザミウマ…やや少**

両害虫とも今年は梅雨期の降雨は陽性型の状況でしたので発生がやや多い状態で経過しました。梅雨が明けて、乾燥した天気が続くと発生はさらに多くなります。増殖が早く、秋芽の生育・充実が著しく阻害されます。発生が多い傾向の園では秋芽の萌芽前に補完防除して密度低下を図ります。残効の長い薬剤の使用が望ましいです。

深刈り、浅刈りなどの更新園の再生芽は集中的に被害を受け、樹勢回復に著しく影響しますので、特に注意します。

☆ **コカクモンハマキ…やや多** **チャハマキ…多** **チャノボリガ…やや多** **ヨモギエダシヤク**

最近発生が多くなり、毎年この時期から被害が増加します。この時期の発生はガラガラと不揃いになり、いずれも若齢幼虫期、巻葉初期、葉潜巻葉期に防除することがポイントです。

表 三・四番茶摘採後および更新園の病虫害薬剤防除法

対象病虫害	防除時期	使用薬剤・使用濃度	使用基準
輪斑病 (最終摘採・整枝直後) (更新園再生芽整枝後) (台風後緊急防除)	摘採・整枝後 台風後 (3日後迄)	カスミンホルト [®] 1000倍 アミスター 20フロアブル 2000倍 テブ [®] ロスフロアブル 1000～2000倍 ニマイ [®] 水和剤 1000倍	30日前 1回 14日前 3回 14日前 2回 14日前 1回
新梢枯死症・炭疽病 (更新園再生芽)	更新園再生芽生育期 (1～3葉期)	ベフト [®] 水和剤 500倍 ダ [®] コニール 1000 700～1000倍 フロンサイト [®] SC 2000倍 アミスター 20フロアブル 2000倍 ナリア WDG 2000倍	7日前 2回 10日前 1回 14日前 1回 14日前 3回 7日前 2回
黒葉腐病(更新園再生芽) (発生の恐れのある園)	更新園再生芽生育期	ダ [®] コニール 1000 700倍 ナリア WDG 2000倍	10日前 1回 7日前 2回
チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	摘採後～秋芽萌芽前 更新園再生芽生育期	コルト [®] 顆粒水和剤 2000～3000倍 ハチハチ乳剤 1000～1500倍 グレース [®] 乳剤 2000倍	7日前 2回 14日前 1回 14日前 1回
マダ [®] ラカサハラハムシ	秋芽萌芽前	コテツフロアブル 2000倍	7日前 2回
ヨモギ [®] エダシヤク コカクモンハマキ・チャハマキ	摘採・整枝後 (若齢幼虫期)	ファルコンフロアブル 4000～8000倍 スピ [®] ノエスフロアブル 2000～4000倍 デアナ SC 2500～5000倍	7日前 2回 7日前 2回 前日 1回
チャノボリガ [®]	再生芽生育期 (卵～葉潜幼虫期)	アフーム乳剤 1000～2000倍 グレース [®] 乳剤 2000倍	7日前 1回 14日前 1回
コカクモンハマキ カサ [®] ワハダニ チャノキイロアザミウマ	若齢幼虫期 発生初期	アグリメック 1000倍	7日前 1回

☆注意 ① ダ[®] コニール 1000 は秋芽生育期に使用予定の場合には最終摘採・整枝後の使用は出来ない。

② 薬剤選定はこれまでの使用状況、秋芽生育期使用予定や耐性菌、抵抗性問題を考慮して行う。